

「やまぐち産業戦略推進計画」の取組効果について

<p>【工業出荷額】</p> <p>■ 7.1%増加 (実績)</p>	<p>《産業戦略指標》</p> <p>○国(5.7%)を上回る7.1%の増加</p> <p>・計画策定時(H24年)：6兆860億円 →H26年：6兆5,196億円</p>
<p>【物流拠点港湾の機能強化】</p> <p>■石炭輸送コスト3割削減 (計画・推計値)</p> <p>■鉄道車両輸送コスト2割削減 (実績・推計値)</p>	<p>《物流拠点港湾の機能強化P》</p> <p>○港湾整備により石炭輸送コストが年間約1割(23億円)削減の見込み</p> <p>○さらに、ケーブサイズ級船舶の入港が可能となった場合、年間約3割(100億円)削減の見込み</p> <p>○大型船舶に対応した港湾整備により、徳山下松港から海外への直送が可能に</p> <p>・平成27年度から4年間で約800両を英国へ出荷予定</p>
<p>【工業用水の安定供給】</p> <p>■渇水時追加給水可能量 年間最大170万m^3確保 (推計値)</p> <p>■日量14,100m^3を供給 (計画)</p>	<p>《工業用水の安定供給P》</p> <p>○宇部丸山ダムへの送水ポンプ設置による貯水システムの運用、和田取水の川上ダムへの一時貯留や下松市工業用水による応援給水制度の効果的な運用により確保</p> <p>○周南地区の渇水対策として島田川分水事業に着手(H32年当初給水開始予定)</p>
<p>【道路網の整備による円滑な物流】</p> <p>■下関西道路</p> <p>◇国道191号下関北バイパスの整備</p> <p>・山の田～綾羅木地区の渋滞緩和</p> <p>・物流拠点(長州出島)との連携強化</p> <p>■山口宇部小野田連絡道路</p> <p>◇山口宇部道路小郡JCTの整備</p> <p>・空港、新幹線へのアクセス向上</p> <p>◇山口宇部道路由良ICのフルランプ化</p> <p>・産業団地へのアクセス向上</p> <p>◇小野田湾岸道路等の整備</p> <p>・小野田市街地の渋滞緩和</p>	<p>《物流等基盤の強化P》</p> <p>○「汐入交差点～安岡駅前交差点」の所要時間が、最大約14分短縮(約21分→約7分)</p> <p>→大型クルーズ客船利用客の観光周遊における利便性も向上</p> <p>○萩市役所から山口宇部空港までの所要時間が、最大約8分短縮(約79分→約71分)</p> <p>○近隣3産業団地(山口テクノパーク等)から山口市方面へのアクセス可能</p> <p>○フルランプ化以降、近隣3産業団地に6社の企業進出決定</p> <p>○「長田屋橋交差点～宇部興産前交差点」の所要時間が、最大約5分短縮(約20分→約15分)</p>

<p>【新規投資】</p> <p>■ 21.7%増加 (実績)</p>	<p>《戦略的な企業立地等の推進P》</p> <p>○平成25年から4か年の新規投資件数は185件で、その直前4年間(H21~24:152件)と比較し、21.7%増加。新規雇用人数(計画)は、2,393人</p>
<p>【新事業展開】</p> <p>■売上金額 245億円 (計画・推計値)</p>	<p>《医療関連産業クラスターの形成P》</p> <p>《環境・エネルギー産業クラスターの形成P》</p> <p>《水素利活用による産業振興と地域づくりP》</p> <p>○やまぐち産業戦略研究開発等補助金を活用した事業化</p> <p>平成32年度までに、事業化数74件、売上金額約245億円、雇用人数約300人の見込み</p> <p><医療関係></p> <p>事業化36件、売上金額157億円、雇用人数176人</p> <p><環境・エネルギー関係></p> <p>事業化38件、売上金額88億円、雇用人数100人</p> <p><事業化例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・純水素型燃料電池システム (東芝燃料電池システム(株)) ・大腸癌抗がん剤副作用予測用遺伝子解析キット (東洋鋼鈑(株))
<p>【観光の需要拡大による経済効果】</p> <p>■消費拡大 325億円 (計画)</p>	<p>《明治維新150年を契機とする観光需要の拡大P》</p> <p>○延べ宿泊者数500万人の達成にあわせた日帰り観光客の増加を含め推計し設定した旅行消費額の目標は4,367億円</p> <p>→計画策定時(H24:429万人)と比べ、325億円の消費拡大の見込み</p>
<p>【クルーズ船寄港による経済効果】</p> <p>■5億円 (推計値)</p>	<p>《クルーズ船の誘致推進P》</p> <p>○平成28年のクルーズ船寄港は30回で前年比6割増加、寄港による経済効果は約5億円</p> <p>○平成28年は平成25年比で寄港回数が2.5倍(平成25年:12回→28年:30回)</p>

【「やまぐちブランド」等の販路拡大】

■ぶちうまファイブの出荷数量 2.7倍 (実績)

■日本酒出荷量 9年連続増加 (実績)

■長州黒かしわの出荷数量 2倍 (実績)

■きじはたの出荷数量 1.8倍 (計画)

《「やまぐちブランド」等の販路拡大P》

- 「ぶちうまファイブ」(地酒(酒米)、ゆめほっぺ、長州黒かしわ、のどぐろ、特選乾椎茸)の平成27年度の出荷量は、平成24年度から平均で2.7倍増加
- 平成27酒造年度の日本酒出荷量は24酒造年度の約1.7倍
 - ・全国で山口県が唯一9年連続して増加
 - ・酒米生産量は平成24年度の約2.7倍
- 長州黒かしわは、一般国産銘柄鶏の3~4倍の価格で取引され、平成27年度の出荷数量は24年度の約2倍
- きじはたの市場価格は、大型活魚でキロ当たり最高5千円で、養殖トラフグと比べても高値
 - ・資源管理を徹底しており、平成29年度には、27年度の1.8倍(20t)の水揚げ見込み

【アジア等に向けた輸出拡大】

《アジア等に向けた輸出拡大P》

地域	現 状
台 湾	・みかんジュースの輸出 (H27.12) ・日本酒の本格輸出 (H28.5)
香 港	・大根、トマト、梨等の輸出 (H27.6) ・鶏卵の本格輸出 (H27.8) ・やきとりの本格輸出 (H28.6)
上 海	・焼拔蒲鉾の輸出 (H28.8) ・県産米使用おかゆの輸出 (H28.9)
ミラノ	・長州地サイダー、小野茶、みかんゼリーの輸出 (H28.4)
マレーシア	・日本酒 (H29.2)

○平成27酒造年度の海外向け日本酒出荷量は、24酒造年度の2.1倍

【新規雇用創出】

■29.5%増加 (実績)

《産業戦略指標》

○平成25年から3か年の新規雇用創出(18,860人)は、平成22年から3か年(14,556人)に比べ、29.5%(4,304人)増加